



ー ALTや英語講師とのTTを考える ー

皆さんは、ALTや英語講師の先生方とうまく連携を図りながら外国語活動の授業を展開していますか？まかせっきりになっていませんか？もちろん「うまくやっているよ！」という方もたくさんいらっしゃるでしょう。

今回は、「もう少しかな？」と感じている方のために、もっとよいTeam-Teachingをしたいと考えている方のために、ALTや英語講師との「効果的なTT授業の在り方」を考えてみたいと思います。

ALTとは？

- Assistant Language Teacher の略です。外国語指導助手のことです。

ALTや英語講師の役割は？

- ALTや英語講師の役割を考えると、学級担任との違いを押さえることが大切です。下図をご覧ください。

	学級担任	ALT・英語講師
①適性	小学校教育／学級経営／児童理解	外国語（英語）に関する知識や運用力
②設計	計画の立案、内容や活動の構想 教材・教員の準備	外国語指導の視点からの協力・アドバイス
③実施	全体の掌握・進行 英語を使おうとするモデル 軌道修正や個の支援	言語材料の自然な発話 外国の習慣や文化の紹介 児童への言語材料の指導
④評価	積極性や関心・意欲・態度、国際理解についての評価	コミュニケーションに対する態度や、言語や文化への理解を振り返る

②を見てください。授業の設計、つまり「単元の構想・授業の構想」は、基本的には学級担任ということになります。ここをすべてALTや講師にやってもらっていたのでは、「丸投げ」と言われても致し方ありません。

「これまで不十分だった・適切でなかった」ということであれば、まずここから見直しましょう。

「単元の構想・授業の構想」の仕方（例）です。

まず、Hi, friends! の指導案が必要です。児童用テキストと同じくらいの厚さで「指導編」がありますが、それとは別です。新規作成でもよいのですが、ひとまず「できているもの」でいいです。次のどちらかでどうでしょう。

一つは、文科省の指導資料です。「単元の指導計画と各時間の指導案」で構成された資料です。

もう一つは、「Hi, friends! 準拠 他教科関連指導研究編（東京書籍 税別¥1,600）」です。これには、Hi, friends! にはないオプションの活動も載っていますし、具体的な活動の進め方も載っています。まだまだこれから使える一冊です（Hi, friends! 1・2各一冊）。（もちろんこれ以外のものでも構いません。）

そして、それらをベースにしなが、ALTや講師の先生方に、児童の実態に合ったプラスαの活動や得意な活動を「外国語指導の視点からのアドバイス」ということで提案してもらいます。「教材・教具」も「こんなカードある？」というのが学校にあるけど使える？」と相談してはどうでしょう。

次に③、授業の実施です。基本を言えば、T1は学級担任・T2はALTや英語講師ということになりますが、きっちり線引きするようなイメージでない方がよいのではないのでしょうか。

デモンストレーションは二人でやるのがよいですし、ミッシング・ゲームのような具体的な活動場面では、一緒にやったり交互にやったり、二人で柔軟に動くのがよいと思います。「言語材料の指導」の場面で、メインはALTや講師であっても、担任の先生は「引き過ぎない」ように気を付けたいものです。

その他も含めてポイントをまとめると

- ALTの派遣が単元のどの段階になるかという見通しを立てましょう。
- 外国語指導の視点からアドバイスをもらいましょう。
- たくさん英語を話してもらいましょう。
- ALTや講師と英語を話せる機会をつくってあげましょう。
- 役割や状況によって、立ち位置を変えましょう。
- ALTや講師の使う英語をくり返したり、まねたりして英語を積極的に使いましょう。
- 児童が分かっていないときは、「もう一度・ゆっくり」など言い直してもらいましょう。

